

漁場等環境モニタリング調査

○岡村貴司・幡野真隆

◆背景・目的

主たる漁場である琵琶湖北湖盆の漁場環境の動向を把握するための基礎資料とするために、継続して調査を行う。

◆成果の内容・特徴

○琵琶湖定点定期観測

- ・琵琶湖北湖5定点において、透明度、水温、pH、プランクトン沈殿量、DO、CODおよび栄養塩等の分析を行った(資料編参照)。
- ・湖水温(5定点平均)は11月調査まで平年値より高い値であったが、12月調査から平年値を下回り始め、12月調査では0~30m層、1月調査以降は全層で平年値より低い値となった。
(平成17年12月は平年より気温が低い日が多く、積雪量が多かった。)

○保護水面指定水域(フナ・モロコ)湖岸の水質調査

- ・T-PやCODなどの調査項目において水産用水基準の基準値を上回る測定値があったが、過年度と比較すると、概ね範囲内であった。

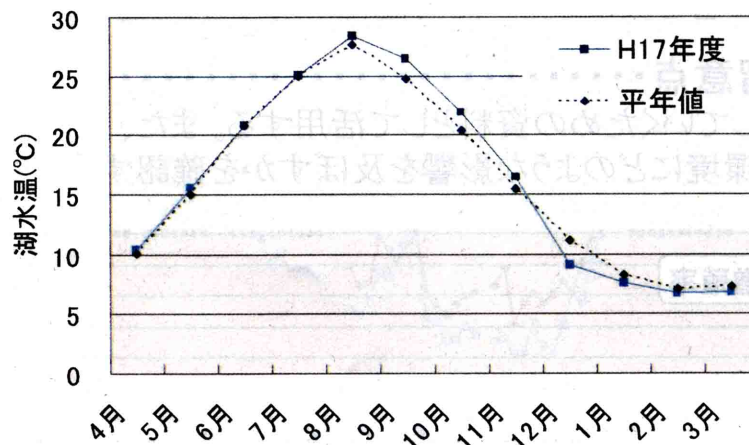


図. 定期観測における表層水温(5定点平均)

* : 平年値は1971~2000年(30年間)の平均値

◆成果の活用・留意点

- ・今後も継続して、漁場や保護水面指定水域の動向を把握するためのモニタリング調査を行っていく必要がある。